

宝蔵ありふさ状の端小

清和帝より

立石蔵下のに字鉄平をありり今に五と
あり又大師の平といふ人もあり予た偽
を志しき宝蔵は身より平や堂のあた
右より左十二頁あり

一天花岩

小西の間にありけし岩端れてきり立石の
ちきり是より起りまや岩の形あはして
見ゆふさなよ天花といひふやあり洞
あり十六羅漢の像を至そ下に親き堂

あり

一出羽守兼光の墓

小西の間に極楽院の根より法名玉山白

公大居士

一鳥井左京亮成石塔

高仙堂の後大板のたよりその堂塔敷
多あり悉記をにいとほあはに芭蕉翁の
柿の比当山の系及よめてしれ

閑さや岩より志こ入塔此寺

ふさ状といふ延宝年中尚昆の役人松本